

(様式4)

## 令和7年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

生徒一人一人の実態を把握し、「わかる授業」の充実、成功体験を積み重ね「自己有用感」を育む活動の充実は、本校の学校計画の根幹である。それを踏まえて、教務部による学習活動、保健厚生部による学校生活、進路指導部による進路支援、特活部による特別活動、その他として福祉教養科の5点を重点項目に絞り、評価を受けた。

重点課題①：生徒の実態に即した適切な受講登録とわかる授業の確立

重点課題②：保健厚生委員会活動の活性化

重点課題③：生徒一人一人が主体的にキャリア形成と自己実現を目指しながら、目標に向かって実践できる進路指導（支援）体制を構築する。

重点課題④：特別活動を通して、協働的・自発的に活動できる生徒の育成を図る。

重点課題⑤：家庭・福祉への興味・関心を向上させ、家庭・福祉に関する知識・技術の習得を図るとともに、福祉教養科での学びの達成感や充実感を高める。

重点課題の評価は、②がA（達成）であり、③、④、⑤がB（ほぼ達成）、①はC（現状維持）であった。取組状況とその成果について、高い評価をいただくとともに、いくつかの課題も指摘され、指導・助言をいただいた。

- ① 長期欠席、不登校生徒等、原因を掘り下げ検証し、登校に繋がるよう適切に支援してほしい。
- ② 生徒の主体性を伸ばす取組が実践されていることを評価。今後も継続されていくことを期待する。
- ③ 就業体験は、生徒自身が社会経験を積むという点、学校と地域が連携するという点での効果が期待できる。継続的に実施してほしい。
- ④ 学校行事を通して、学校全体に賑わいが創出され、生徒が主体的に活動している様子が見てとれる。
- ⑤ 地域や関係団体との連携を更に深め、生徒の成長を支援してほしい。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

学校全体の課題として「わかる授業」の確立に向けた授業改善に取り組んでいく。また、長欠生徒が増加傾向にある中、それらの生徒が学びを継続していくための環境整備は大きな課題である。今後、オンライン授業を含む具体的な支援方法を整備していく。更には、卒業後の社会生活を見据え、生徒の主体性を伸ばすための指導（支援）も重要な課題である。年次、分掌、教科等が連携しチーム学校として取り組んでいきたい。